

A-91 摂取脂肪酸の貯蔵について

武蔵野女大短大の後藤みづ子。尾崎博子。栗原文男。中村富美恵。馬嶋安正。

目的 摂取脂肪の貯蔵形と経路などについての研究の一部として、今回は経口摂取した脂肪酸が吸収後トリグリセリドのカイロミクロンとなり、そのまま貯蔵されるか或は肝臓を経て貯蔵されるか、パルミチン酸オレイン酸およびその混合物について調べて見た。又その際の飽和化についても調べた。

方法 48時間飢餓(水だけ)にした約200g(♂)の白ネズミ2~10匹を1群としてこれを30群に分けた。各群に1匹につき $1-C^{14}$ パルミチン酸0.8g(3.2MC)或は $1-C^{14}$ オレイン酸0.8g(2.9MC)或は $1-C^{14}$ オレイン酸(2.0MC) + パルミチン酸0.8g(2:1)を少量の濃粉魚粉食塩水と共にダangoにして与え、3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27, 30時間後に血清肝臓貯蔵脂肪の総脂肪或は各脂肪或はトリグリセリド中の各脂肪酸の比放射能を測定した。

結果 摂取パルミチン酸, オレイン酸, オレイン酸+パルミチン酸(2:1)共に肝臓のオが貯蔵脂肪より速く, 同程度に比放射能が増減した。そして貯蔵脂肪の放射能の出現はパルミチン酸摂取のときが他に比べて遅かった。それ故これらは肝臓を経て貯蔵されるらしいかった。又この際の飽和化は腸壁では起らず(亦飽和化の起らないことは既に明らか), 主として肝臓で起るらしいかった。